

第13章 2. b. 変法運動と義和団事件

①日清戦争での敗北→より徹底した改革への要求

1898年、[1 **康有為**]らが光緒帝の信任を得て改革を開始（[2 **戊戌の変法**]）

[3 **明治維新**]をモデルとし[4 **立憲君主国**]をめざす（[5 **変法自強**]運動）



②1898、[6 **西太后**]ら保守派は洋務派と結び、クーデタで政権を奪還（[7 **戊戌の政変**]）

= 保守的・反動的政権の復活

③列強の中国分割の進行→ヨーロッパ人への民衆の反発、反キリスト教運動（[8 **仇教**]運動）



山東省を中心に秘密結社=[9 **義和団**]の広がり（スローガン=[10 **扶清滅洋**]）

11 清朝政府に協力し、欧米勢力・文化を追い払う

教会・鉄道破壊・宣教師・キリスト教信者追放



1900 北京に侵入、外国大使・公使館を包囲→清朝、列強に宣戦を布告



列強八カ国連合軍、北京を占領=[12 **北京議定書**]（辛丑和約）締結

1) [13 **外国軍隊**]の北京駐留を承認 2) 巨額の賠償金

日清戦争の敗北のショックのなかでより徹底した改革の要求がでてきた。1898年[14 **康有為**]らが皇帝光緒帝の信任を得て[15 **明治維新**]をモデルとした立憲君主制をめざす改革、[16 **変法自強**]運動がそれである。しかしそれにたいして[17 **西太后**]ら保守派は洋務派官僚支持をえてのまきかえしをはかり[18 **戊戌**]の政変で政権を奪い、保守的、反動的政権が成立した。列強の進出がすすむなか華北で武術をもとにした宗教結社 [19 **義和団**]が「20 **扶清滅洋**」をスローガンに力を伸ばした。そして1900年には北京に侵入、外国公使館を包囲した。これに対し、列強は共同出兵を行ない、北京を占領、北京の駐兵権などを認めた [21 **北京議定書**]を清朝に認めさせた。(1901)

第13章 2. c. 辛亥革命と中華民国の成立

①[22 **変法自強運動**]の挫折、列強の中国分割の進行、義和団事件の対応

[23 **民族資本**]の成長→外国からの[24 **利権回収**]運動をすすめ、国会の即時開催を求める
→民営鉄道建設運動

②海外での[25 **華僑**]や留学生による革命運動の活発化→秘密結社の樹立（[26 **興中会**]など）



1905 [27 **孫文**]ら革命結社の大同団結をはかる=東京で[28 **中国同盟会**]を結成

四大綱領（[29 **驅除韃虜・恢復中華・創立民国・平均地権**]）採択

←孫文が提唱する[30 **三民主義**]主義を基調とする

三民主義

…漢民族国家復興([31]) 共和国の建設([32]) 貧富の差の抑制([33])

③清朝の改革

1905 [34 **科挙**]の廃止、[35 **憲法大綱**]の発表、国会召集の約束など立憲君主制へ（光緒新政）
→1911 責任内閣制樹立
財政の立て直しのため、増税や外国借款による[36 **鉄道国有化**]政策を打ち出す。

清朝政府の弱さに絶望した知識人たちは革命の必要性を実感し、各地で興中会、華興会、光復会など革命結社ができた。これらを大同団結して生れたのが1905年の[37 **中国同盟会**]であった。ここでは[38 **孫文**]が主張した[39 **三民**]主義を基調にした四大綱領が決定された。

④1911 [40 **鉄道国有化**]令にたいし激しい反対運動発生



[41 **四川**]省や[42 **武昌**]で暴動発生→1 3の省が清からの独立を宣言（[43 **辛亥**]革命）



1912、1 [44 **孫文**]を臨時大総統に[45 **中華民国**]成立、憲法制定

政権基盤は弱体、政権維持は困難、革命派の一致も得られない



清朝、軍閥の[46 **袁世凱**]に軍・政両権を与え、革命鎮圧を命令



革命派と妥協、皇帝[47 **宣統帝(溥儀)**]の退位と引換に中華民国の臨時大総統に就任（[48 **清**]滅亡）
←イギリスなど列強の支持

[49 1911]年、[50 **鉄道国有化**]に反対する運動が各地で活発化し、四川省で暴動が発生、つづいて[51 **武昌**]で軍隊が反乱を起こすと、中国全土でこれに呼応した革命運動が発生、大部分の省が清朝からの独立を宣言した。これを[52 **辛亥**]革命という。これをうけ、革命派は1912年臨時大総統に[53 **孫文**]を選出し[54 **中華民国**]の建国を宣言した。これにたいし清朝は軍の実力者[55 **袁世凱**]に鎮圧を命じたが、彼は革命派と妥協、清の皇帝を退位させ、臨時大総統の地位を獲得した。

⑤袁 孫文([56 **国民**]党結成)らを弾圧、武装蜂起（[57 **第二革命**]）を鎮圧

→のち中華革命党を結成

→正式大総統に就任→1915[58 **帝政**]を宣言→各地で反乱（第三革命）が発生、1916挫折し病死



⑥各地で地方軍事政権（[59 **軍閥**]）が台頭。列強と結び中国の分裂深刻化

臨時大総統となった袁世凱は、1913年選挙に勝利した孫文ら[60 **国民**]党を弾圧、これに反対して発生した[61 **第二革命**]を鎮圧、正式に[62 **大総統**]となった。その後、彼が[63 **帝政**]復活を宣言すると、[64 **第三革命**]が発生、翌1 6年にはこれを取り下げまもなく死亡した。その後中国では、列強の支援を受けた地方軍事勢力（[65 **軍閥**]）が各地に分立、互いに抗争を繰り返す時代がつづく。